

つぎの文章を読んで、後の問題に答えましょう。

何かを調べるとき、すぐに本を開いたり、人に聞いたりしていませんか。調べる前に、少しだけ立ち止まって「たぶん、こうではないか」と予想を立ててみると、調べるのがぐっとおもしろくなります。

たとえば、クラスみんなが休み時間に何をして遊んでいるかを調べるとします。何も考えずにアンケートをとると、「おにごっこが多かった」という結果が出て、それで終わってしまいがちです。ところが、先に「ドッジボールがいちばん多いだろう」と予想しておくと、結果を見たときに「あれ、ちがった。なぜだろう」という新しい問いが生まれます。そこから、「雨の日が多かったからかもしれない」「ボールの数が足りないのかもしれない」と、さらに考えを進めることができます。

予想が当たったときにも、よいことがあります。自分の考え方が正しかったと分かり、次に考えるときの自信になります。

つまり、予想は当たっても外れても役に立ちます。大切なのは、当てるのではなく、予想と結果をくらべることです。くらべることで、自分がどう考えていたのかに気づき、考えを深めることができるのです。

まちがえるのがこわくて、予想を立てない人もいるかもしれませんが。けれども、外れた予想こそ、新しい発見への入り口です。調べる前に、自分の予想を言葉にしてみましょう。

(この問題のための書き下ろし)

問一 予想が外れたとき、結果を見て何が生まれると筆者は言っていますか。本文から六字まで書きぬきましょう。

新しい問い

問二 「ボールの数が足りないのかもしれない」は、どんなことをしている例ですか。いちばんあうものを、ア～ウから一つえらびましょう。

ア 予想が外れたわけを、さらに考えている。

イ アンケートのとり方のまちがいに気づいている。

ウ 予想が当たって、自信をつけている。

ア

問三 筆者が「予想は当たっても外れても役に立ちます」と言うのはなぜですか。四十五字まで書きましよう。

外	生	当	い	る
れ	ま	た	と	か
ば	れ	れ	分	ら
新	考	考	か	。
し	え	え	っ	
い	が	方	て	
問	進	自	信	
い	み	が	に	
が	、	正	な	

問四 この文章で筆者がいちばん言いたいことは何ですか。いちばんあうものを、ア～ウから一つえらびましよう。

ア 予想はまちがえるとはずかしいので、立てないほうがよい。

イ 調べるときは、先に本を読んでから予想を立てるのがよい。

ウ 予想と結果をくらべることで、考えを深めることができる。

ウ

【小5】国語 文章問題 説明文 4 答えと解説

問一（二十五点） 答え：新しい問い

解説：二つ目のまとまりの「という新しい問いが生まれます」から。

問二（二十五点） 答え：ア

解説：すぐあとの「さらに考えを進めることができるのです」から。予想（ドッジボール）が外れたので、そのわけを考えている。ウは予想が当たったときの話。

問三（二十五点） 答えの例：外れれば新しい問いが生まれて考えが進み、当たれば考え方が正しいと分かって自信になるから。

解説：二つ目と三つ目のまとまりから。外れたときと当たったときの両方が書けていれば正かい。

採点のポイント（二つそろって満点、一つなら半分）

- ①外れたときは、新しい問いが生まれて考えを進められる
- ②当たったときは、自分の考え方が正しいと分かり自信になる

問四（二十五点） 答え：ウ

解説：四つ目のまとまりの「大切なのは、当てることではなく、予想と結果をくらべることです」から。アは最後のまとまりと反対。イは「調べる前に」予想を立てるという本文と合わない。